

～回顧録2 【祇園枝垂桜】～

●アラス江戸川アパートメントの「大きな庇（キャピター）」をくぐりエントランスに至る「コリドー（回廊）」からの景観づくり（前庭、枝垂れ桜）は、とても思い出深い。

●この建物の形態は、この「大きな庇」を置くためにデザインをしたと言っても良いかもしれない。

建替えの計画において、日影規制、高度斜線が厳しく、容積（ボリューム）確保は絶対条件であり、その為平面的には高密にならざるを得なかった。高密化せざるを得ない計画の中で、建物全体を「邸宅としての品格」を持たせるものにしたいと悩み続けた。具体的には「伝統的な邸宅の様式」としての「門」や「前庭」を意識した。現在ある門（ゲート）全体を覆う形のキャピターと、そこから前庭のあるコリドー（回廊）を配したのもこの意識に基づく。

キャピターの上にも建築は可能であったが、あえてそこは床をつくらなかった。

大きなキャピターに覆われた門（ゲート）から垣間見える前庭の風景に、人をワクワクさせたかった。

（子供の頃、探検ごっこをしながら、近所のお屋敷を覗く気持ちに似ているかもしれない。）



エントランス ファサードとキャピター

●ゲートをくぐり、エントランスまでのコリドーの「前庭」は、桂川氏のデザインによる。桂の株立と苔・灌木、白砂を施し景観をつくり上げた。



コリドー前庭



コリドー前庭